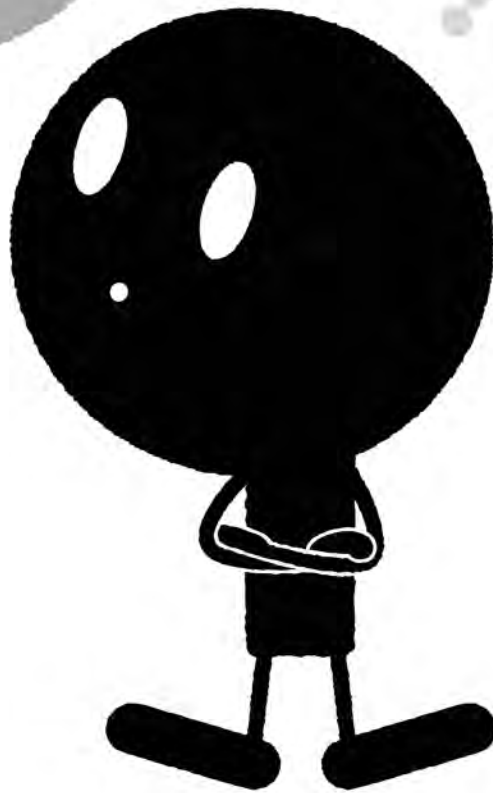


# キャリア教育って 結局何なんだ？

中学でやる意味、  
ホントにあるの!?



ひら

自分と社会をつなぎ、未来を拓くキャリア教育

— 中学校におけるキャリア教育推進のために —

# キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な能力等を育てる教育です。

そんなことを目指しても、中学校での課程は本当に必要なのだろうか？—こうした考えになっている生徒もいるかもしれません。キャリア教育が今日の中学生にとって重要であることは示す様々なデータは、すでに各報の報道によって得られています。その一部を本「アップデート」の11ページに説明しましたので掲載しています。中学校には、生徒が今の自分を見つめ直し、将来の自分の姿を思い描き、思い描いたりする教育活動が数多くあります。これらはキャリア教育の成果から伝えます。わが国が工業先進国であり、豊かなキャリア教育へと発展するチャンスは少なくないのです。

一人一人の中学生が、将来の進路と日々の教育活動の連動を知り付け、自分と社会をつなげるきっかけづくりが重要である。キャリア教育を一層推進させましょう。

進学  
社会での活躍



## キャリア教育が目指すもの

- 一人一人のキャリア発達を支援します。
- 学ぶことや働くこと、生きることの喜びを体験させ、学ぶ意欲を向上させます。
- 将来の社会的・職業的自立の基盤となる資質・能力・態度を育てます。
- 望ましい進路選択・職業観を育てます。

中学でのいろいろな活動も、ちよつとした工夫で、キャリア教育に発展するんだ！



### 中学校におけるキャリア教育

#### 家庭・地域社会との連携・協力

#### 中学1年生



○ **たとえば 保健体育**  
団体競技で、仲間の大成功、ルールへの敬意を知ろう



○ **たとえば 進路の時間**  
自己の向上を促し、個性を伸ばして、現実的な進路を選択しよう



○ **たとえば 学芸活動**  
学びことと働くことの関連について思いっきり、ディベートを行ったりしよう



○ **たとえば ポランティア活動**  
共に助け合って生きることの喜びを体験しよう

#### 中学2年生



○ **たとえば 理科**  
理科で学習することが様々な職業と関係していることを知ろう



○ **たとえば 職業体験活動**  
自分の学習に位置付けて、自己を理解し、将来の生か方を考えよう



○ **たとえば ポランティア活動**  
共に助け合って生きることの喜びを体験しよう

#### 中学3年生

意思決定能力  
人間関係形成能力  
将来設計能力  
情報活用能力など

社会的・職業的自立に向けて  
必要な能力等を体系的に育てる

進学  
社会での活躍

中学校卒業



詳しくは  
次頁から

#### 1年生のキャリア発達の課題

- 自分の長所や個性が分かる。
- 自己と他者の違いに気付く、尊重しようとする。
- 集団の一員としての役割を理解し果たそうとする。
- 将来に対する漠然とした夢ややるがれを語る。

#### 2年生のキャリア発達の課題

- 自分の活動が、他者に及ぼす影響について理解する。
- 社会の一員としての目標が学生生活とともに社会や大人を客観的にとらえる。
- 将来への夢を達成する上で現実の問題に直面し、挑戦する。

#### 3年生のキャリア発達の課題

- 自己と他者の個性を尊重し、人間関係を円滑に進める。
- 社会の一員としての責任と責任を認識する。
- 将来設計を達成するための困難を理解し、それを克服する努力に向かう。

#### 中学校におけるキャリア教育の目標

- 肯定的自己認識と自己有用感の獲得
- 将来志向に基づく進路選択・職業観の発達
- 進路計画の立案と実行の遂行
- 生きがいを体験し、生きる意欲の涵養

# 教科でも進めよう！キャリア教育

## キャリア教育のねらいと関連する主な内容(活動例)



### 各教科におけるキャリア教育の意義は？

子どもたちの日常の学習態度や生活態度は、自分の進路や将来設計に重要な役割を果たしています。大まかに影響を受ける、大きな進路決定の時期は、小学校高学年から中学校にかけてです。この時期にキャリア教育のねらいと関連する主な内容を学習することで、子どもたちが将来の進路選択や学習態度を向上させることができます。

**例) 理科：将来-職業について役立つこと**

技術者や研究者、製造業に従事する人にとっては、科学の発展が不可欠な要素の一つであることは当然です。理科の学習を通して、科学の発展がもたらす様々な変化や、科学者が直面する課題や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。また、科学の発展がもたらす様々な変化や、科学者が直面する課題や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

**例) 英語：将来-職業について役立つこと**

英語は、国際的なコミュニケーションの重要な手段であり、多くの職業で求められるスキルです。英語の学習を通して、国際的なコミュニケーションの重要性や、英語がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 数学



**目標**  
● 数学の重要性や、数学的思考力や問題解決能力の重要性を認識させる。  
● 数学の学習が将来の職業や学習態度に与える影響を理解させる。

### 国語



**目標**  
● 読書習慣の定着や、読書を通じた学びや自己啓発の重要性を認識させる。  
● 読書がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 保健体育



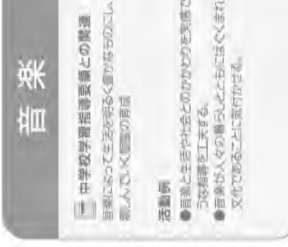
**目標**  
● 健康的な生活習慣や、スポーツを通じた学びや自己啓発の重要性を認識させる。  
● 健康的な生活習慣がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 音楽



**目標**  
● 音楽の楽しさや、音楽を通じた学びや自己啓発の重要性を認識させる。  
● 音楽の学習がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 道徳



**目標**  
● 道徳的価値観の確立や、道徳的思考力や問題解決能力の重要性を認識させる。  
● 道徳的価値観がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 社会



**目標**  
● 現代社会の課題や、社会参加の重要性や自己啓発の重要性を認識させる。  
● 社会参加がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 美術



**目標**  
● 創造性や表現力の向上や、美術を通じた学びや自己啓発の重要性を認識させる。  
● 美術の学習がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 理科



**目標**  
● 科学的思考力や問題解決能力の向上や、理科を通じた学びや自己啓発の重要性を認識させる。  
● 科学的思考力がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 外国語



**目標**  
● 外国語の学習がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 総合的な学習の時間



**目標**  
● 総合的な学習の時間を通して、自己学習や探究学習の重要性を認識させる。  
● 総合的な学習がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 特別活動



**目標**  
● 特別活動を通して、自己学習や探究学習の重要性を認識させる。  
● 特別活動がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 技術・家庭



**目標**  
● 技術や家庭の学習がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 総合的な学習の時間



**目標**  
● 総合的な学習の時間を通して、自己学習や探究学習の重要性を認識させる。  
● 総合的な学習がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 特別活動



**目標**  
● 特別活動を通して、自己学習や探究学習の重要性を認識させる。  
● 特別活動がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 総合的な学習の時間



**目標**  
● 総合的な学習の時間を通して、自己学習や探究学習の重要性を認識させる。  
● 総合的な学習がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 特別活動



**目標**  
● 特別活動を通して、自己学習や探究学習の重要性を認識させる。  
● 特別活動がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。

### 特別活動



**目標**  
● 特別活動を通して、自己学習や探究学習の重要性を認識させる。  
● 特別活動がもたらす様々な機会や挑戦について学ぶことは、将来の職業選択や学習態度に大きな影響を与えます。





# 教育活動をキャリア教育の視点で「つなく」 それぞれの教育活動における学びや体験をつないで効果を高めよう

## 教育活動をつなぐ

一人で、みんなで、学びの全体を

キャリア教育の視点をもって取り組むことにより、それぞれの教育活動をキャリア教育に「つなく」ことが出来ます。また、それぞれの教育活動をつなぐことによって、キャリア教育の「種」を「実」に育て、効果的にキャリア教育を履かせることが出来ます。また、それぞれの教育活動の質も高まる事が出来ます。身近なところから始めてみましょう。

### それぞれの教育活動を通じたキャリア教育

キャリア教育の視点で生徒たちに働きかければ、教科や授業の時間、特別活動、学校での生徒生活といつか、それぞれの教育活動を通じて、キャリア教育を履かせることが出来ます。たとえば朝や昼、満席なども、生徒の役割を担った責任感や達成感を育てることが出来ます。



それぞれの教育活動を通してキャリア教育の視点で生徒たちに働きかけましょう

### それぞれの教育活動を「つなく」キャリア教育

「つなく」によってそれぞれの教育活動の効果が期待されます。また、学校の学びを深めることも出来ます。「つなく」はキャリア教育の全体計画や年間指導計画の第一歩にもなります。

### 校内をつなぐ、校際間をつなぐ

#### 組織をつなぐ

教育活動全体でのキャリア教育を計画的に実施していくためには、特定の教務分掌や学年担当の教師にだけ任せるのではなく、全職員で協力して取り組むことが大切です。

#### 小学校をつなぐ

小学校においても生涯学習を推進し、勤務先や職業教育を広く普及させる必要があります。つまり、中学校からキャリア教育のスタートするだけでなく、小学校からキャリア教育のスタートする必要があるため、このように連携を深め、このように協力し、身に付けていく必要があります。

## それぞれの教育活動を「つなく」キャリア教育の例

### 一人で 一人一人の学級担任が、それぞれつなぐことができるキャリア教育

#### 道徳の時間と特別活動をつなぐ

新法は目標達成に向けて取り組むこと、重要視している。道徳の時間でも、道徳の時間を自ら進んで取り組むこと、重要視している。道徳の時間でも、道徳の時間を自ら進んで取り組むこと、重要視している。道徳の時間でも、道徳の時間を自ら進んで取り組むこと、重要視している。

**道徳の時間**：道徳の時間を活用して、自己の人生を振り返る

**特別活動**：校外体験

**つなぐ**：一人一人の学級担任が、それぞれつなぐことができるキャリア教育

#### 各教科と道徳の時間や特別活動をつなぐ

今後の学習指導要領の改訂では、すべての教科書で道徳の時間の活用を促すことが求められています。また、特別活動においても、各教科との連携を図ることが求められています。

**理科**：理科の授業

**つなぐ**：一人一人の学級担任が、それぞれつなぐことができるキャリア教育

**道徳の時間**：人々の生活によって自分が暮らすことに影響する

### 各教科の教師が連携してつなぐキャリア教育

#### 各教科等をつなぐ

中学校には、子どもたちが自分の生きていく中で必要とするキャリア教育の視点で、各教科の教師が連携してつなぐキャリア教育を実施することが求められます。

#### 社会(公民的分野)：私と社会

社会(公民的分野)：私と社会。社会(公民的分野)：私と社会。社会(公民的分野)：私と社会。社会(公民的分野)：私と社会。社会(公民的分野)：私と社会。

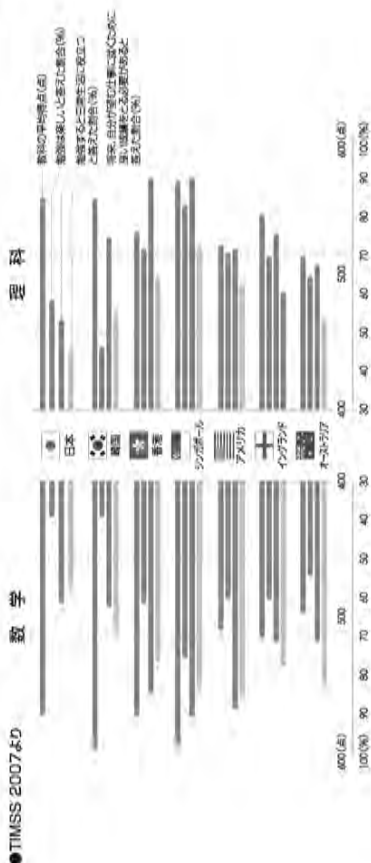




# データが語るキャリア教育の必要性

- A. 生涯 キャリア教育の必要性(キャリア教育推進)の認知率(%) (MSSS0077) (調査対象: 高1生)
- B. 生涯 キャリア教育の必要性(キャリア教育推進)の認知率(%) (MSSS0077) (調査対象: 高1生)
- C. 生涯 キャリア教育の必要性(キャリア教育推進)の認知率(%) (MSSS0077) (調査対象: 高1生)
- D. 生涯 キャリア教育の必要性(キャリア教育推進)の認知率(%) (MSSS0077) (調査対象: 高1生)

## A. 現在の学習と将来の仕事とが結び付かない中学生



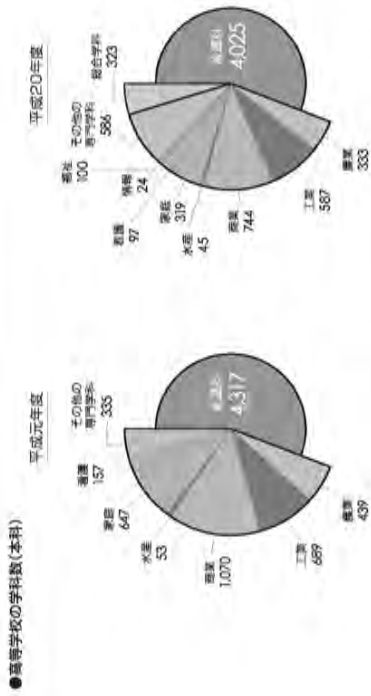
日本の中学生の成績はそれほど悪くありませんが、将来の仕事と学習との結びつきが弱いことが懸念されています。生涯キャリア教育の必要性が示されています。

## B. キャリア教育推進に対する生徒・保護者の大きな期待



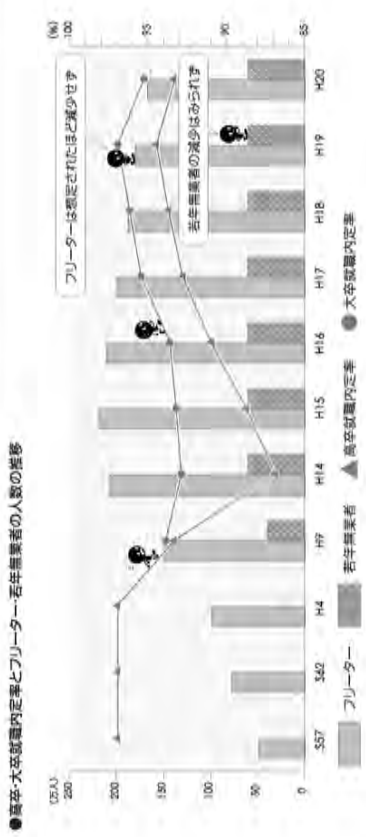
生涯キャリア教育推進に対する期待は、生徒・保護者ともに非常に高いです。生涯キャリア教育の推進は、生徒の将来にとって非常に重要な役割を果たすことが期待されています。

## C. 進展する高等学校の多様化



この20年間の間に高等学校の学科数(科目)は、看護、芸術、保健師など多岐にわたる「その他の専門学科」の増加も顕著で、職業に関する専門学科の増加も目立ちます。特に、芸術科においても特色あるコースなどが導入されています。高校進学だけでなく、様々な職業分野から主体的に自ら進んで進路を選択するキャリア教育が、ますます必要とされていると懸念されています。

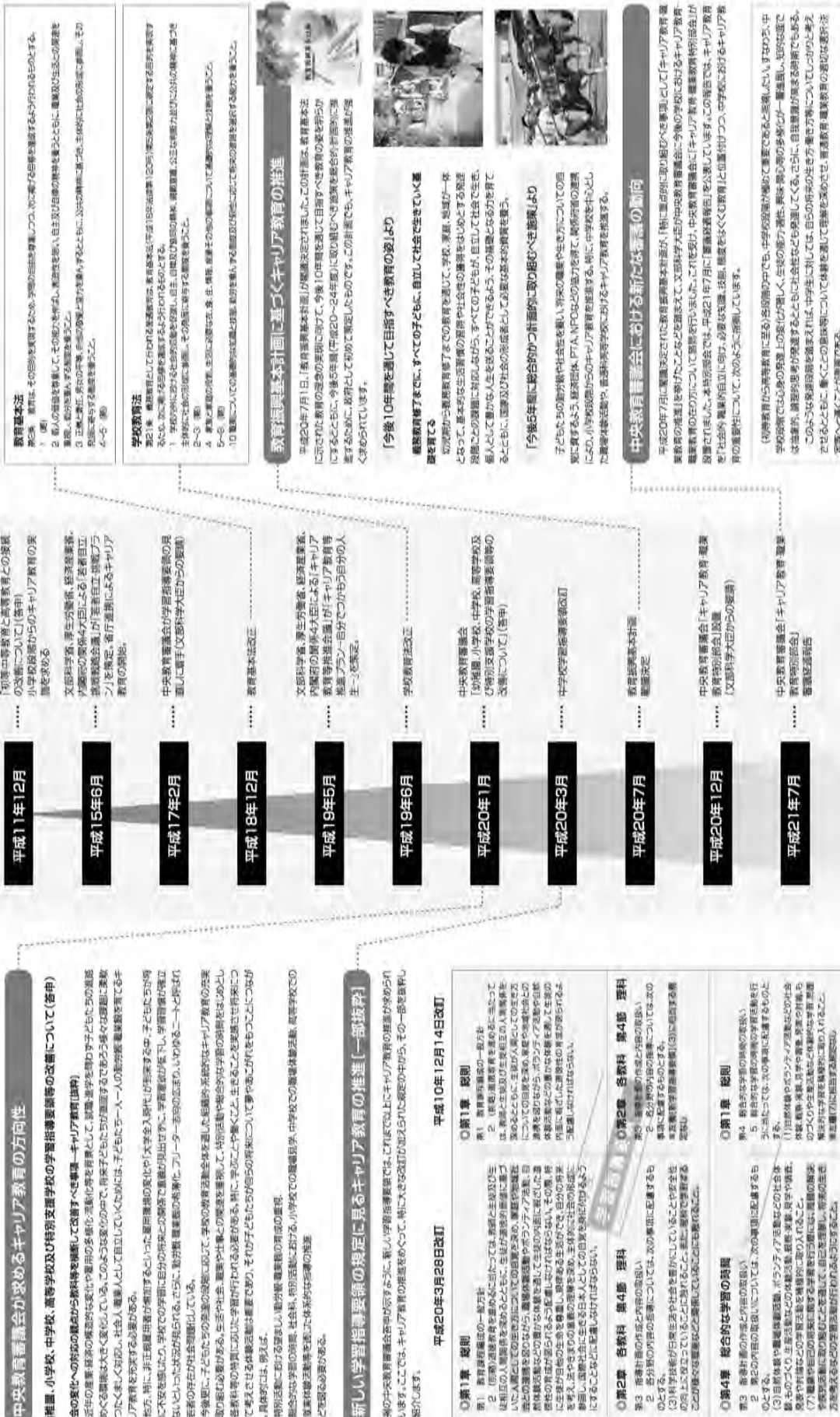
## D. 学校から職業への移行に困難を抱える若者たち



フリーターは増加傾向にあり、高卒就職内定率は減少傾向にある。若年無業者の増加は、学校から職業への移行に困難を抱える若者たちを意味しています。

# 近年の教育改革とキャリア教育の推進

— キャリア教育への更なる期待 —



**キャリア教育の重要性**  
キャリア教育は、その目的を達成するために、学習者の自主的な学習活動、心に響いた活動を通じて、自己実現を目指すよう促すこととする。

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

**キャリア教育の推進**  
1. 目的  
2. 実施主体  
3. 実施時期  
4. 実施場所  
5. 実施内容  
6. 実施方法  
7. 実施評価

# キャリア教育をめぐる疑問にお答えします



## Q1 従来の進路指導とキャリア教育とはどう違うのですか？

**A** 進路指導は、従来「総合」としてキャリア教育との間に大きな差異は見られず、その取組は、キャリア教育の中核をなすことになっています。

また、キャリア教育は、職業生活、家庭生活、市民生活等における様々な立寄や体験をキャリアとしてとらえ、一人一人に合わせたキャリア形成を促し、自立して働くための必要な態度や能力を育てることを目指しています。この意味で、進路指導とキャリア教育の目的は、同一である

と言えるでしょう。

その一方で、進路指導は中学校・高等学校における教育活動として扱われ、その対象は、進路指導は、進路指導と大きく異なる点があります。成人も対象となる点も、キャリア教育は、進路指導と大きく異なる点があります。

また、これまでの進路指導の実践は、その理念を必ずしも反映したものではありません。例えば、一人一人の発達を総合的に考慮することが求められていたにもかかわらず、進路指導は、進路指導と大きく異なる点があります。

## キーワード「キャリア」

**キャリアの原義**  
「キャリア」(career)は中世ラテン語の「道」を起源とし、英語で、道、職業や職階におけるコースやそのトラジック(行旅、足跡)を意味するものであります。そこから、人がたどる行旅やその足跡、経歴、履歴など、職業生活、職業上の出世や成功を指すようになった。(中略)なお、渡辺子の著作『職業の心理学』を著した「キャリア」(carrier)は、渡辺(学生労働者)のキャリア形成を支援する労働政策研究会(報告書(平成14年7月)より)

**キャリアの定義**  
個々の生涯にわたって遂行する様々な立寄や役割の連続及びその過程における自己と働くこととの関係付けや関係付けの総称  
「キャリア」とは、一般的に生涯にわたる経歴、専門的技能を要する職業に付いてのことなどを指し、通常、意識付には多岐であるが、その中にも共通する概念、意識がある。それは、「キャリア」が、「個人」に「働くこと」の経験の上に成立する概念である。また、個人から切り離して考えられないということである。また、「働くこと」については、職業生活以外にも「職業」や「学校」の発露活動、あるいは、ボランティア活動などの多様な活動があることなどから、個人がその学校生活、職業生活、家庭生活、市民生活等のすべての生活の中で経験する様々な立寄や役割の連続として捉えらるべきである。

## Q2 キャリア教育のねらいは4つの能力(人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力)を伸ばすことでしょうか？

**A** これら4つの能力は、一般的に、社会的自立を図る上で必要な能力であると考えられ、発達段階を通じて育成されるものです。これは、キャリア教育を通じて身に付けさせる様々な能力の総称としてとらえることができます。(文部科学省「小学校・中学校・高等学校、キャリア教育推進の手引」(平成18年))

各学校では、これら4つの能力を伸ばすには、学校や地域の特性、子どもたちの発達段階、発達段階に合わせた育成を図ることなどから、特設の授業について学校の環境を整えることにより、効果的にキャリア教育を進められることが期待されます。

## Q3 よく「キャリア教育の視点」と言いますが、この「視点」とは何か教えてください。

**A** 子どもたちが、将来、社会的自立・職業的自立を促すためには、小学校、中学校、高等学校において、一人一人が主体的に学び、その学びの過程を通じて、一人一人のキャリア形成を促すことが必要です。

また、これまでの進路指導の実践は、その理念を必ずしも反映したものではありません。例えば、一人一人の発達を総合的に考慮することが求められていたにもかかわらず、進路指導は、進路指導と大きく異なる点があります。

## Q4 職場体験などの体験活動を行うことがキャリア教育ですか？

**A** いはい、そうではございません。体験活動はキャリア教育を推進する取組の一つとして位置づけられます。キャリア教育は、教育活動全体を通じて、将来子どもたちが社会の一員としての責任を担い、社会的な自己実現を図ることが目的であり、自己実現を図ることが目的です。

## Q5 なぜ5日間の職場体験活動が推奨されるのですか？

**A** 充実した職場体験活動を実施するためには、ある程度の期間が必要であり、1日、仕事を覚え、2日目、仕事に慣れ、3日目、仕事を覚え、4日目、感動の5日目と進むように、5日間の職場体験により、生徒の心に定着します。また、人と人との関わり合いを通して、一人一人の様々な資質や成長を促し、5日間の体験は、新たな発見や失敗、つま先などを通じて、体験を通じて、職業生活や職業の理解を深めることにつながります。

## Q6 中学校でのキャリア・カウンティングはどのようでしたらよいですか？

**A** 中学校におけるキャリア・カウンティングは、生徒一人一人の将来の生き方や進路に関する悩みや疑問などを受け止め、自己の可能性や進路についての目標を定め、適切な情報を提供し、自己実現に向けて進路を選択することを目指すことで、進路に関する悩みや疑問を解消することを目指す。また、キャリア・カウンティングは、自己の可能性や進路に関する悩みや疑問を解消することを目指す。また、キャリア・カウンティングは、自己の可能性や進路に関する悩みや疑問を解消することを目指す。

また、キャリア・カウンティングは、自己の可能性や進路に関する悩みや疑問を解消することを目指す。また、キャリア・カウンティングは、自己の可能性や進路に関する悩みや疑問を解消することを目指す。



# キャリア教育をめぐり 疑問にお答えします

## Q7 保護者の理解はどのように得たいでしょうか？

**A** キャリア教育は、生徒の自己理解や生き方などにかかわる内容を取り扱うため、生徒にとってもっとも身近な大人である保護者の理解や協力が不可欠です。保護者会やPTAなどより丁寧な説明を行い、考え方を共有し、お互いの理解を深めたいと考えています。また、キャリア教育への直接的な関心を求め、職業人の講話、職業人インタビュー、職業体験活動などに積極的

に参加していただくほか、情報の提供を依頼することも有効です。また、特に職業体験活動の期間中は、働くことの楽しさや楽しさについて家族で語り合う機会の機会となり、会話をきっかけに子どもの成長や新たな一面を発見することにもつながります。家庭での会話のきっかけとなるような資料を作成し、各家庭に配布することも効果的でしょう。

## Q8 キャリア教育を進めるとどのような効果が見られるのですか？

**A** ○生徒にとって  
「学ぶこと」だけでなく「働くこと」の意義や重要性に気付くことなどにより、学習意欲の向上につながる可能性があります。また、自分の理解を深め、新たな自分を発見することで自己有用感が高まります。また、現代のコミュニケーションや社会性、キャリア教育の目標を相関に関連した上で、適切な評価を行うことが大切です。また、キャリア教育の推進や活動に関する評価、

親子ともに学びあう機会を創出することができ、地域を活性化させることができ、地域が一体となり子どもたちを育てていくことにつながることを目指しています。

## Q9 キャリア教育の評価はどうすればいいですか？

**A** 各学校におけるキャリア教育の実践が、その教育目標を達成し、さらにより効果的なものとなるように発展させていくためには、キャリア教育の目標を相関に関連した上で、適切な評価を行うことが大切です。また、キャリア教育に関与する教育全般について、計画(Plan)を実行(Do)、評価(Check)して改善(Action)に結びつけるPDCAサイクルの循環が評価されていること。また、キャリア教育の実践や活動に関する評価、

だけでなく、職業や学校の関係や学校・地域によって多岐にわたることに留意し、評価として活用できるように、評価はできる限り生徒に親しみ、自己評価によって生徒自身の成長を実感できるようにすること、

### 【作成協力委員】

- 青木 敬 新潟県下関市立石橋北小学校教頭
- 鬼木 安幸 新潟県上越市教育委員会学校教育指導主事
- 川崎 友樹 関西大学北条学部教授
- 佐々木 敬昭 千葉県千葉市立津田本郷中学校教諭
- 佐藤 亨 東京都墨田区立寺島中学校教諭

- 西田 優次郎 兵庫県教育委員会生涯学習課教育指導主事
- 松井 賢二 新潟大学教育学部教授
- 松岡 マミ 高知県教育センター指導主事
- 森田 浩 シブアブファースト川中川キャリア教育支援コーディネーター
- 八咫岡 留美 東京都中野区立第八中学校工務教諭



文部科学省  
国立教育政策研究所  
National Institute for Educational Policy Research

〒102-8501 東京都千代田区千代田1-1-1  
TEL: 03-6733-6882 FAX: 03-6733-6987  
URL: [http://www.nier.go.jp/O4\\_kensyu\\_ama/div09-shido.html](http://www.nier.go.jp/O4_kensyu_ama/div09-shido.html)

